

会議録

会議の名称	西東京市子ども子育て審議会 計画専門部会 第7回
開催日時	令和元年7月22日（月曜日）午後6時30分から7時40分まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎5階 503会議室
出席者	部会員：谷川部会長、石橋部会員、尾崎部会員、菅野部会員 事務局：子育て支援部長 古厩、子育て支援課長 清水、子育て支援課主幹 岡田、保育課長 遠藤、保育課主幹 海老澤、なかまち保育園長 小関、けやき保育園長 笹本、ひばりが丘保育園長 市川、児童青少年課長 原島、子ども家庭支援センター長 八矢、子育て支援課 栗林、八巻 欠席：古川部会員、吉野部会員
議題	1 報告 (1) ヒアリング調査結果（追加報告分）について (2) 子どもアンケート（速報：単純集計結果報告）について 2 その他
会議資料の名称	資料1 ヒアリング調査の実施状況 資料2 西東京市 子どもアンケート＜速報：単純集計結果報告＞
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 報告</p> <p>(1) ヒアリング調査結果（追加報告分）について</p> <p>○谷川部会長： 事務局から説明をお願いします。</p> <p>（事務局から資料1について説明）</p> <p>○事務局： ヒアリングについては、前回の計画専門部会でも報告したが、今回はその後実施した「子育てサークル・子育て支援団体利用者」「スキップ教室卒業生保護者」についての報告である。</p> <p>○谷川部会長： ヒアリングやニーズ調査などの結果については、どのように読み解いて理解していくか、なかなか難しいとは思いますが、計画の策定に向けて、施策・事業の効果が出ているのか、支援は十分か、考えていく材料にしていきたいと思う。 ぞうさん文庫やミトンの会は、地域住民の方には知られているのだろうか。</p> <p>○菅野部会員： ぞうさん文庫は古くから続いている活動で、地域には根付いていると思う。ミトンの会は児童センターを拠点としていて存在感も大きいので、ご存じの方は多いと思う。</p> <p>○谷川部会長： 児童センターと、ちろりん村はどのような関係にあるのだろうか。児童センターは自</p>	

主活動を支援しているという立場か。

○事務局：

NPO法人ワーカーズ・コレクティブちろりん村がミトンの会という子育てひろばのような事業を実施していて、ひばりが丘児童センターとの共催というかたちをとっている。居場所の提供やこのような活動を行っているという案内を児童館の催事カレンダーに入れたりしている。

○谷川部会長：

児童センター単独で同じようなことをやったとしても、ここまで開かれている雰囲気は生まれないと思う。このように民間の活動を支援するというかたちはいいかもしれない。ぞうさん文庫は現在のところメンバー不足で悩むことはないとのことだが、この点については市民活動が盛んな西東京市ならではのことだと思う。

また小規模保育施設から子どもたちの散歩を兼ねて市民活動の場に来所したというのはとてもいい話だと思う。どちらにとっても有機的なつながりができたのではないだろうか。やはり、皆さんは居場所を探しているのだと思う。今年は、特によくはない天候が続いているため、なかなか外にも行きにくい。

○菅野部会員：

子どものエネルギーは相当なものなので、いろいろと機会をつくってあげる必要はあると思う。

○谷川部会長：

このように規模は小さくても構わないので、多様な事業があちらこちらにあることが重要なのではないだろうか。他に意見はあるだろうか。

○尾崎部会員：

西東京市への要望・希望で、「一時保育の予約が、どうしても預けたい時に取りづらいため改善してほしい」という意見がある。結局、子どもを預けるところがハードルになってしまっている。市から何かを提供する場合、一時保育はとても重要であると思う。一方で、自由に参加できるということや、あらゆる活動において「ゆるさ」も必要で、その方がさまざまな活動に入っていくやすいのだとも感じた。

○谷川部会長：

重層的な取組が大切だろう。子育てひろばはゆるさのあるつながりがいい。一時保育については多少ルールが厳しくてもよいので、確実に使えるようになることが求められている。今回のヒアリングからは、他にも、保育園に入りやすくしてほしい、保育園のお迎えのルールを変えてほしいなど、さまざまな意見が得られている。

続いて、スキップ教室の卒業生保護者へのヒアリングに移りたい。卒業生保護者の方々に一人ずつ丁寧にインタビューできたことによって、かなり深い部分まで引き出せていると思う。これはぜひ、計画のためだけではなく、教育委員会や事業主体であるスキップ教室の先生方にフィードバックをしていただきたい。学校の中にあるとよい、学校の中にあつたら行けなかったなど、いろいろな意見があり、これもやはり重層的にい

ろいろな居場所が必要であることを示していると考えられる。

○尾崎部会員：

西東京市に期待することとして、早い段階でスキップ教室のような施設の紹介があってもよい、不登校の子どもにはこのような施設があるという情報提供が入学時にあるのもよい、といった意見がある。

私も子どもの登校しぶりを経験しているが、学校の先生からはスキップ教室の名前は出てこなかった。こういう相談窓口がありますよというよりも、そもそも入学の時点で行き場所が学校しかないということではない、という情報が少しでもあれば考えやすくなる。また、中学生であれば自転車通学もできるという情報も紹介がないと分らないと思う。連携がうまくできていれば大丈夫かもしれないが、早い段階での情報提供については取り組んでいくべきだと考える。

○谷川部会長：

私はスクールソーシャルワーカーだが、学校が外の団体を紹介するというのはなかなか難しいことなのだと感じることは多い。不登校への対応施設を紹介することで、うちの学校には通ってくることができなんでしょう、というメッセージになってしまうのではないかと考えるふしもあるだろう。まずは、とにかく全員に情報を知らせておく必要性は大きいと考える。

○事務局：

西東京市では、小学校、中学校の入学時に『一人ひとりを大切に』という冊子を保護者に配布している。詳細な情報ではないが、特別支援学級やスキップ教室の連絡先や場所についての情報は掲載されていて、相談できるかたちにはなっている。

○谷川部会長：

実際、登校しぶりのような事態に直面すると、どうしたらよいのかわからなくなってしまうだろう。以前に聞いていたとしても、情報を自分で引き出せるかどうかは別問題になってしまうかもしれない。

それにしても、これだけ詳細にいろいろなことをヒアリングできていることは素晴らしいと思う。私たちとしては、このヒアリング結果を計画に反映させていかなければならないので、重要と思われることがあれば、意見をいただきたい。

○尾崎部会員：

西東京市に期待することとして挙げられている父親向けの講座や土日の相談窓口については、検討に値するのではないかと思う。子どもが生まれる時点での父親学級のようなことは実施されているが、子どもが小学生、中学生になるとおやじの会くらいしかなくなってしまう。おやじの会やPTAについてはそれほど参加率が高くはないと思うので、何かのかたちでの情報提供は行っていった方がよいのではないかと考える。孤立して追いつめられないような情報提供が求められているのではないだろうか。

○谷川部会長：

土日の教育相談については、行われていないのだろうか。

○事務局：

今の段階では、教育委員会は土日の教育相談は行っていないが、土曜日に各学校での講演会を開催している。

○谷川部会長：

私に関わりのある自治体の例では、年に2回、1回は夜間、もう1回は土曜日の昼間に、適応指導教室、教育相談などの説明会を保護者と子ども向けにやっていて、結構な人数が集まる。学校を休んでいる子どもたちなので、情報が伝わりにくいことから、市報と市内全校の学校だよりも情報を載せてもらっている。父親も含めて多くの親子が参加し、会場では個別相談もできるようになっている。このかたちであれば学校の方も、このような説明会があるということをお伝えしやすいし、欠席が続いている子どもの家庭にもこの情報は届けなければならないと考えるわけなので、こういうことを検討してもいいかもしれない。

(2) 子どもアンケート（速報：単純集計結果報告）について

○谷川部会長：

事務局から説明をお願いします。

（事務局から資料2について説明）

○事務局：

子どもアンケートについては、6月下旬から7月上旬までの間に各学校や夜間開館をしている児童館・児童センターで実施・回収したものについて速報を報告させていただく。現段階ではグラフ化されていない数値のみの報告であること、今後、報告書にする段階で細かい確認を行い、訂正などが生じる場合もあることをご了承いただきたい。また、今回は単純集計表として、年代別に異なるページに掲載されているが、報告書の段階では1つのグラフの中で年代別の比較ができるようにしていく予定である。表では、各設問で回答割合の第1位に網掛けがしてある。

回答数としては、市内3校の小学5年生から333票、市内2校の中学2年生から249票、16・17歳については、夜間開館を実施している児童館・児童センターの5館から18票を受け取っている。

まず、小学5年生の結果について報告する。「おとなになっても西東京市でくらしたいですか」については、「2 別の場所でくらししてから西東京市に戻ってきたい」が第1位で41.4%となっている。

「問5 あなたは、学校が終わった後（放課後）、どこにいたことが多いですか」では、「1 自分の家」が第1位で88.0%、「問6 あなたは、学校が終わった後（放課後）、本当はどのような場所で過ごしたいですか」でも「1 自分の家」が第1位で72.7%となっている。

「問11 あなたのことやくらしのことについて、どうやって決めたいですか？」では、「家族のイベント」については、「3 親やおとなに相談して一緒に決めたい」が52.3%で第1位となっている。以降の「風呂・食事・勉強などの生活時間」「外食時の

メニュー」「服装・髪型・ファッション」「進路や将来」「塾や習いごと」「つきあう友だち」「恋愛」については、「自分で決めたい」が第1位となっている。「校則など学校のルール」「クラスのルール」「運動会など行事の内容」「児童会や生徒会の活動」「授業の内容」「市の重要なこと」「子どもに関わる市の重要なこと」「児童館・公園の使い方」「お祭りなど地域の行事」「子ども会議など子どものための会のこと」については、「自分で決めたい」ではなく「親やおとなに相談して一緒に決めたい」や「親やおとなに決めてほしい」が第1位となっている。

次に、中学2年生の結果について報告する。「おとなになっても西東京市でくらしたいですか」では、「3 別の場所でくらしたい」が第1位で43.4%となっており、小学5年生との違いが見られる。

「問5 あなたは、学校が終わった後（放課後）、どこにすることが多いですか」は、「1 自分の家」が第1位で89.6%。「問6 あなたは、学校が終わった後（放課後）、本当はどのような場所で過ごしたいですか」は、「1 自分の家」が第1位で83.1%となっており、小学5年生と同様の結果となっている。

「問11 あなたのことやくらしのことについて、どうやって決めたいですか？」について、「家族のイベント」は、「3 親やおとなに相談して一緒に決めたい」が61.0%で第1位となっている。これ以降、「風呂・食事・勉強などの生活時間」「門限などの家庭のルール」「外出時のメニュー」「服装・髪型・ファッション」「進路や将来」「塾や習いごと」「つきあう友だち」「恋愛」については、「自分で決めたい」が第1位となっているが、「校則など学校のルール」「クラスのルール」「運動会など行事の内容」「児童会や生徒会の活動」「授業の内容」「市の重要なこと」「子どもに関わる市の重要なこと」「児童館・公園の使い方」「お祭りなど地域の行事」「子ども会議など子どものための会のこと」については、「自分で決めたい」ではなく「親やおとなに相談して一緒に決めたい」や「兄弟や友だちなど子どもに相談して一緒に決めたい」が第1位となっている。

続いて、16・17歳の結果について報告する。「西東京市は好きですか」は、「2 まあ好き」が第1位で61.1%。「おとなになっても西東京市でくらしたいですか」は、「1 ずっとくらしたい」と「3 別の場所でくらしたい」が同率第1位で38.9%となっている。

「問11 あなたのことやくらしのことについて、どうやって決めたいですか？」について、「家族のイベント」では、「3 親やおとなに相談して一緒に決めたい」が33.3%で第1位となっている。これ以降、「風呂・食事・勉強などの生活時間」「門限などの家庭のルール」「外出時のメニュー」「服装・髪型・ファッション」「進路や将来」「塾や習いごと」「つきあう友だち」「恋愛」まで、「自分で決めたい」が第1位となっており、ここまでは小学生、中学生と同様だが、16・17歳では、続いての「校則など学校のルール」「クラスのルール」「運動会など行事の内容」「児童会や生徒会の活動」「授業の内容」についても「自分で決めたい」が第1位となっており、そこが小学生、中学生と異なる点である。

「市の重要なこと」「子どもに関わる市の重要なこと」については、「4 親やおとなに決めてほしい」と「7 他の子に決めてほしい」が同率で第1位。「児童館・公園の使い方」「お祭りなど地域の行事」「子ども会議など子どものための会のこと」につ

いては、「7 他の子に決めてほしい」が第1位となっている。

○谷川部会長：

前回と比べてもなかなかおもしろい結果が出ていると思う。例えば、小学5年生の「あなたがほっとできるときはどんなときか」については、「寝ているとき」がダントツの第1位で73.6%となっているが、前回は57.1%だった。小学生がみんな疲れているということだろうか。また、「友だちと遊んだり話しているとき」が55.9%で増えている。

せっかくこれだけの子どもが回答してくれたわけなので、しっかりとこの結果を分析して、彼ら彼女らの求めているものに答えられるようにしていくのが大人の責任だと考える。子どもアンケートの結果について、何か意見はあるだろうか。

○石橋部会員：

このアンケートの回答率はどのくらいなのか。

○事務局：

小学5年生については、配付数が351で回答数が333。中学2年生については、配付数が268で回答数が249である。16歳と17歳については、夜間開館を実施している児童館や児童センターで、来館者に配付して行ったものであるため、母数というものが特にない。

○石橋部会員：

回収率は高いと思う。

○谷川部会長：

おそらく学校では、その場で回収してくれたのではないだろうか。自宅に持って帰った場合は、中学生では3分の1くらいになる可能性があったと思う。続いて、今回、16歳と17歳については18名となっているが、前回の回答数は55名だったのでかなり減っている。この結果については、たまたまなのか、夜間開館を実施している児童館や児童センターの利用が減少しているのかどちらなのだろうか。

○事務局：

16・17歳アンケートについては前回と同じ方法をとっている。今回は6月下旬から7月上旬にかけての2週間に行った。児童館や児童センターの利用が減少していることはないと思うが、この期間の天候が悪かったことなどが関係しているかもしれない。

○谷川部会長：

了解した。この子どもアンケートについては、今後も事務局で分析を深めていただきたい。今回のヒアリングとアンケートについては、とても丁寧に聞けているし、協力していただいた方々も多いので、有効活用していきたいと考える。

2 その他

○谷川部会長：

最後に事務局から連絡事項をお願いする。

○事務局：

次回の計画専門部会は子ども子育て審議会が新体制になってから、専門部会員の皆様のご都合をお聞きして調整したい。

○谷川部会長：

それでは、本日の内容は終了したので、第7回計画専門部会を終了とする。

閉会